

【身近なワンヘルスの取組】

ワンヘルス未来会議を通して、私たちのグループがワンヘルスの取組として提案したいのは、日常生活において身近である「てまえどり」の実践です。

資源の有効活用を通じて環境負荷を下げ、人や動物が安全で健康な生活を送る基盤を守る取組です。食品ロスの削減は、食品によって支えられる人間の健康、家畜としている動物の健康、食品廃棄の削減によりCO<sub>2</sub>の排出を抑制する環境の健康という「三つの健康」をつないで一つの大きな健康の輪にする、まさに「ワンヘルス」の取組と言えます。

この提案に関心を持った理由は、「てまえどり」がすでに社会に浸透しつつある身近な行動であり、日常の買い物の中で簡単に実践できる取組だからです。小さな行動でも食品ロスの削減につながる点に魅力を感じ、ワンヘルスの考え方と結びつけることで、より多くの人に伝わりやすいと感じました。また、高校生である自分たちだからこそ、若年層の流行や言葉の感覚を取り入れ、若い世代にも興味を持ってもらえる可能性がある点に関心を持ちました。

【県民への伝え方】

すでに県民の皆様馴染みのある「てまえどり」の啓発資材を活用します。

新たに“ワンヘルスマーク”と短いフレーズで例えば“すぐ食べるなら、てまえどり。ワンヘルス界限からのお願いです！”など若年層にも響く言葉を添えます。

一人ひとりが今日からできる具体的な行動をイメージしやすい言葉で伝えます。

また、買い物をする大人だけでなく、これからの未来を担う子供たちが、身近な行動からワンヘルスを学び意識するきっかけを作りたいと考えます。

【期待される効果】

現在、日本では、国の発表によると令和5年度464万トンの食品が捨てられていると公表されています。日本の人口1人当たり毎日おにぎり1個(102g)を捨てている計算になります。

「てまえどり」によって食品ロスを減らすことは、ごみの減量だけでなく、人や動物の健康の保持、CO<sub>2</sub>や費用の削減にもつながり、それらは環境や人の健康を守ることもつながります。「てまえどり」を入り口としてワンヘルスを意識させ行動変容を促す効果が期待されます。